

青年委員会だより

平成 19 年 5 月 1 日 (第 87 号)

(社)青森県建築士会青森支部青年委員会

『子は親の鏡・建築は文化の鏡』

毎度、内装職人です。今回もまたまた懲りずに子育てネタです(笑)

相変わらず毎日いたずらの嵐を吹き荒らす我が息子ですが、今年に入り保育園に通うようになったせいか、話が上手になり親の言うことも多少は聞くようになってきました。それと平行して余計な言葉まで覚えたり、わがママがバージョンアップしてきたので、親としてはうれしく思うと同時にさらなる苦闘が始まりました、、そこで子供の前では汚い言葉は使わないようにと心がけていたのですが、先日の朝保育園に送って行くときのこと、私は息子の発した「バカヤロー」の一言にギョツとした、先に言ったのは私で一時停止を無視して突っ込んできた車にとっさに口から出てしまったものだ、、本当に子供は親を写す正直な鏡です、道がてら話かける教育用の言葉は覚えないくせにヒヤリとした一瞬に出た親の真の姿の言葉は即実践ですから、、やはり何事にも上っ面の小細工は通用しませんね~(笑)、前段が長くなりましたが、ここからが今日の本題です。題目の後半部分の話です、あくまでも私個人の意見ですが、私は建築(建物だけでなくもう少し広い意味)はその時代の文化の象徴(鏡)だと思っています、時にソフト(人々の生活や仕事、趣味嗜好 etc)がハード(建築物や道路、公園 etc)を求め、時にはハードがソフトを導いたりしながら一つの文化を生み出していると思っています。考古学などでも遺跡のハードな部分からソフトを推定するように、両者には非常に密接な関係があると言ってよいと思います(ここでソフトは時代と共に消えていくが、ハードは時代を超えて残っていくところが今日の話のミソです)。

紙面が限られているので、いきなり結論ですが、我々の仕事は今、この時代の文化の一端をつくるというとてもやりがいのあるもので、我々はそれができる幸せものだということです、よって我々は一瞬の「バカヤロー」精神や上っ面の小細工では良い仕事はできないと肝に銘じ(特に私が)、全力で取り組み、仕事に誇りを持つことが必要だと思えます。

追伸、10万年後の青森遺跡調査隊に平成時代のこの地域は特別にすばらしい文化と建築とそれらを支えた卓越した技術者が居たと思わせられるように明日も頑張りましょう。

《新入会員の御紹介》

・ (株)吉田産業青森支店 洞内 正哉さん

青年委員会活動への参加協力お願いいたします

~ 5月定例会のご案内 ~ 今月は第3金曜日

日時 平成19年5月18日(金) 18:30~

場所 中央市民センター 中会議室3

会議室は『まちづくり応援隊』として借りていません

- 議題 1. 春祭りへの参加報告
2. 青森みどころ再発見について

連絡先 青森支部事務局まで TEL:017-773-2882
FAX:017-723-7105

出席者がどんどん減っています。みなさん来て下さい

委員会だよりにもどんどん情報を投稿してください!!!

青年委員会の定例会はCPD認定プログラム1単位となります。

単位シールをご希望の方は、確実に2日前まで出席の連絡をお願いします。ご連絡の無い場合は各自にて(社)青森県建築士会HPよりCPD自己研修バーコード発行システムをご利用ください。なお、各自のログインパスワードは支部事務局までお問い合わせください。
<http://www.aomori-aba.or.jp/>

FAXで送信の場合は、下記フォーマットをご利用ください。

青年委員会5月定例会 5月18日(金)

(出席・欠席)どちらかにをつけてください

氏名

TEL